

# 今年のフィールドワークから



①三枝春生 研究員  
三田市で約3700万年前の哺乳類化石を発見しました。2000年に発掘された神戸市北区でのサイ化石について二度目の発見です。更なる哺乳類化石の発見が今後期待されます。詳しくはハーモニー47号をご参照ください。



②田中哲夫 主任研究員  
三田市内のため池で、カワバタモロコという魚と同じ池にすむトンボのヤゴの数の変化を追っています。魚が増えれば食べられてヤゴの数が少なくなりますが、イトトンボのヤゴはそれ程減りません。何故か？



③布施静香 研究員・高野温子 主任研究員  
2月の終わり、時折雪が舞い散るなか、この時期にしかみられない春植物（スプリングエフェメラル）セツブンソウの調査のため篠山市にでかけました。これはセツブンソウの写真を撮るうとして地面に這いつくばっている布施研究員を撮ったものです。よい植物の写真を撮るためには、なりふりがまっていられません。



④橋本佳延 研究員ら  
猪名川河川敷において外来樹木ニセアカシアの分布を調査し、分布が拡大していることを明らかにしました。この結果をもとに、2004年の冬にニセアカシア群落の駆除作業が行われました。



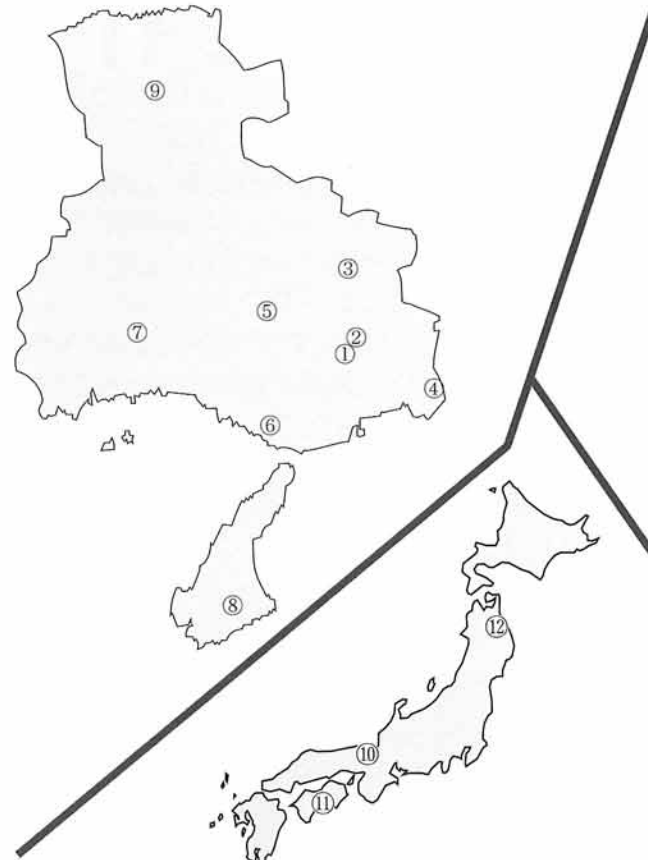
⑤大谷剛 主任研究員  
海野町の丸山氏宅の屋根裏に造巣したニホンミツバチの撤去作業。NPO法人と自然の会の協力を得ました。蜂数1万匹以上の大きな巣でしたが、大半のハチは飛び立たず、蜜まみれになって死滅しました。



⑥江崎保男 研究部長  
明石のため池。初冬のため池地帯に出現する鳥類を10年以上記録してきました。その結果、カワウがこの地に始めて出現したのは1994年の冬であること、市街化とともにドバトやスズメが増えていることがわかりました。



⑦加藤茂弘 主任研究員  
山崎断層系・暮坂峠断層の調査。兵庫県立大学・神戸大学と共同で暮坂峠断層の調査を進めています。トレンチ発掘調査を実施するため、2004年は夢前町護持地区で電気探査を行って断層の正確な通過位置を探りました。



⑧坂田宏志・横山真弓 主任研究員  
二ホンジカ淡路島孤立個体群の捕獲調査（淡路島論鶴羽山）。淡路島には二ホンジカが孤立して生息しています。科学的な保護と管理を進めるため、妊娠率や栄養状態、病気の有無などの調査を行っています。淡路島のシカは本州部と比べると体が小さく栄養状態が悪い、妊娠率の低下や生息環境の悪化が懸念されています。



⑨坂田宏志・横山真弓 主任研究員  
ツキノワグマ出没に関する調査（但馬地域）。クマを殺さずに被害を減らすための方法「学習放獣」の効果検証や出没要因などを調査しています。写真はイノシシワナに誤って入ってしまったクマを放獣するため、麻酔をかけ計測しているところです。



⑩沢田佳久 研究員  
京都府宮津市の天橋立でハマベソウムシが採れたとの情報があり、採集を試みたところ、アマモが漂着した砂浜で6月に多数の成虫が見られました。アマモは砂泥海底に藻場を作る海草で、それに依存する本種は環境指標性の高い昆虫です。

ひとはくで行われている研究は、化石の研究から都市景観まで実に多様です。しかしそれらには戸外に研究対象を求めるフィールドワークが基本と言う共通点があります。2004年も様々な地域でひとはくの研究員はフィールドワークを行いました。そのほんの一部ですが、ごく簡単にご紹介します。



⑬古谷裕 主任研究員  
高知県越知町で古生代デボン紀（約3億8千万年前）の凝灰岩を徹底サンプリングしました。放散虫（プランクトンの一種）化石を抽出し、放散虫の形態が劇的に変化する過程を詳細に追跡中です。



⑭松原尚志 主任研究員  
田中館愛橋（たなかだてあいきつ）記念科学館の小守一男さん・岩手県立博の大石雅之さんと共同で、岩手県一戸産のヒルギシジミ化石に関する論文を発表しました。この発見により、およそ1650万年前には東北地方北部にまでマングローブ沼があったことが明らかとなりました。

編集後記：  
「企画展神戸の植物化石」が本館で開催されます。本号はその特集としました。また、今年研究員がどんな研究をどこで行ったのか紹介してみました。今回紹介した以外にもさまざまな研究がひとはくでは行われています。今後もこうしたひとはくの取り組みを紹介していきたいと思っております。  
(シンクタンク事業室 三枝春生)



⑮布施静香 研究員  
韓国で、ユリ科植物を調査しました。形態とDNA情報から韓国産のショウジョウバカマ属植物は日本産のものとは別種であることが判明、新種として発表しました。



⑯加藤茂弘 主任研究員  
2000年から4年にわたり協力してきた台湾921地震博物館が2004年9月21日に完成。汗だくになりながらメイン展示の車籠埔断層（シャロンボダンソウ）の断面展示を仕上げました。中央のつるつる頭が筆者です（写真提供：台湾国・袁彼得氏）。



⑰中西明徳 研究部長  
ボルネオ島にダナム バレーという、熱帯林に覆われた地域があります。'04年の秋にここへ調査に行きました。幸いなことに、未知と思えるチョウを一種採集できました。研究が進めば、新種発見と言うことになるかもしれません。



⑱高野温子 主任研究員  
インドネシア・中央カリマンタン州のミユラー山脈の植物調査を行った際、州都Palangkarayaから山脈に近いTumbang Naan村までの移動に、水上飛行機を使いました。写真は、村の飛行機着場（人のたっているところ）にむけて移動中の水上飛行機です。



⑲小林文夫 主任研究員  
トルコ人との共同研究で、2001年夏に続き、昨年初秋、トルコのアナトリア高原南部のタウルス山地で地質調査を行いました。現地の標高は2000m。岩石の露出状況は非常に良好で、日本では味わえない野外調査の面白さに浸ってきました。



⑳赤澤安樹 主任研究員  
コミュニティ・ガーデンを日本でも作るために、本場ニューヨークでヒアリング調査をしました。都市の緑としてだけでなく、地区の託児所や環境教育、アートの場として使われていることによって成立していることがわかりました。

人と自然の博物館ニュース  
「ハーモニー」No.49

平成17年4月15日  
兵庫県立人と自然の博物館  
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目  
TEL (079) 559-2001 (代表)  
FAX (079) 559-2007

博物館ではインターネット上でも情報を提供しています。  
URL <http://hitohaku.jp/>

ハーモニーのバックナンバーは博物館のホームページ  
[http://hitohaku.jp/publications\\_index.html](http://hitohaku.jp/publications_index.html)  
でご覧いただけます。